

公開記念特別インタビュー

相棒

劇場版Ⅳ

今や国民的コンテンツともいえる

「相棒」シリーズの映画版第4作が公開された。テロとの戦いや国家への問いかけといった要素を盛り込みながら、過去作をしのぐ壮大なスケールで展開される本作。長く陸上競技の国際舞台で活躍してきた為末大氏に、リーダーに求められる「洞察と俯瞰(ふかん)」の力、理想のチーム像といったさまざまな視点から、本作の見どころについて聞いた。



「洞察と俯瞰」を 極めた杉下右京なら、 きつと理想の相棒に なってくれるでしょうね。

アスリートソサエティ代表理事

為末大氏

ためすえ、だい スプリント競技における日本初の世界大会メダリスト。シドニー、アテネ、北京の3大会連続で五輪出場。2012年に現役を引退し、現在はアスリートソサエティ代表理事。執筆やテレビ出演をはじめ、スポーツを通じた社会活動も積極的に行っている。



少年時代はシャーロック・ホームズがヒーローだったんです。訪問者の衣服の裾とか、普通だったら見過ごしてしまう細部からその人をプロファイリングしていく描写が、今でも印象に残っています。水谷豊さん演じる警察官、杉下右京(すげき)というキャラクターはまさにそのタイプですね。彼のように、人が気づかないディテールに気づけて、なおかつ全体を見ることが出来る能力を持った人「洞察と俯瞰」が同時にできる人には、昔から強い憧れがあります。

もう一つ共感を覚えるのは、時に権威に反発してでも、自分が信じている行動スタイルを貫くところ。インサイダーでありながら、アウトサイダーでもあるというポジションは、スポーツ界での自分の立ち位置にも少し似ていると感じます。もちろんスポーツの世界は、右京や彼の相棒である冠城巨(かむらぎ)がぶらざわたる(ぶらざわ)が属する警察機構ほど官僚的ではないですが、日本の組織というのは大なり小なりそういう部分はあるから、違ふ分野でも同じように感じている人はきつといると思います。

「相棒」シリーズはいつもそうですが、この映画では特にそのあたりが丹念に描かれていますよね。右京ならではの緻密な「洞察と俯瞰」が、最後に大きなリスクを敢然と取りに行く流れにつながっていくところは、実に見ごたえがあります。

今回は、国家と個人の関係が重要な伏線として描かれています。私がこれまでさまざまな国の選手たちと交流してきた感じるのは、現代の世界で、国家というものがすべての人にとってよりどころになり得るのかという問題です。

「相棒」シリーズといえば、タイトル通り右京とタッグを組む相手との関わり合いが見どころです。僕自身は競技生活で相棒的存在をあまり意識した経験はないのですが、チームとして仕事をすること、共通の目的を突き詰めていくことについてはよく考えます。

たえば、日本の短距離はリレーが強い。その要因としてチームワークのよさがよく挙げられるのですが、それはチームワークの仲が良いということかというところ、それはちよつと違う。実際にチームが形作られていくプロセスを見てみると、チームワークとは「いかに役割をこなす切れる集団になるか」を突き詰めていく作業という印象を強く持っています。そこは「相棒」の登場人物の関係性とも共通していると思います。

僕は性格的には個人主義的な傾向が強いので、何十人もの人たちがみんな同じ方向を向いて仲が良い、みたいな関係性には違和感があるんですが、でもその一方で、同じ目的意識を共有していれば、どんなチームであれ必ずいい仕事ができるはずという信念もあります。「相棒」ではまさにそういう部分を描かれています。プロが集うところというか。

競技生活ではきつとコーチを持たずに来ましたが、この映画を見ていると、右京なら組めたんじゃないかと思いましたが(笑)。きつとすごく的確なアドバイスをくれて、でも試合のときは競技場にこない。そんなコーチになつてくれるんじゃないでしょうか。

本当の相棒とは？ チームワークとは？

僕は性的には個人主義的な傾向が強いので、何十人もの人たちがみんな同じ方向を向いて仲が良い、みたいな関係性には違和感があるんですが、でもその一方で、同じ目的意識を共有していれば、どんなチームであれ必ずいい仕事ができるはずという信念もあります。「相棒」ではまさにそういう部分を描かれています。プロが集うところというか。

「相棒」は時代によって、その時々を取り入れるところがいい。今回は愛と切なさを特に感じた

水谷豊・反町隆史 仲間由紀恵・及川光博 / 石坂浩二 北村一輝 山口まゆ / 鹿賀丈史 脚本:太田愛 音楽:池田良 監督:橋本一

「相棒」シリーズはいつもそうですが、この映画では特にそのあたりが丹念に描かれていますよね。右京ならではの緻密な「洞察と俯瞰」が、最後に大きなリスクを敢然と取りに行く流れにつながっていくところは、実に見ごたえがあります。

今回は、国家と個人の関係が重要な伏線として描かれています。私がこれまでさまざまな国の選手たちと交流してきた感じるのは、現代の世界で、国家というものがすべての人にとってよりどころになり得るのかという問題です。

「相棒」シリーズといえば、タイトル通り右京とタッグを組む相手との関わり合いが見どころです。僕自身は競技生活で相棒的存在をあまり意識した経験はないのですが、チームとして仕事をすること、共通の目的を突き詰めていくことについてはよく考えます。

たえば、日本の短距離はリレーが強い。その要因としてチームワークのよさがよく挙げられるのですが、それはチームワークの仲が良いということかというところ、それはちよつと違う。実際にチームが形作られていくプロセスを見てみると、チームワークとは「いかに役割をこなす切れる集団になるか」を突き詰めていく作業という印象を強く持っています。そこは「相棒」の登場人物の関係性とも共通していると思います。

「相棒」は時代によって、その時々を取り入れるところがいい。今回は愛と切なさを特に感じた

水谷豊・反町隆史 仲間由紀恵・及川光博 / 石坂浩二 北村一輝 山口まゆ / 鹿賀丈史 脚本:太田愛 音楽:池田良 監督:橋本一

違和感を拾い集めて見えてくるもの。

現実を見極めつつリスクを取る勇氣。

国家は人のよりどころになれるのか。

本当の相棒とは？ チームワークとは？

「相棒」は時代によって、その時々を取り入れるところがいい。今回は愛と切なさを特に感じた

水谷豊・反町隆史 仲間由紀恵・及川光博 / 石坂浩二 北村一輝 山口まゆ / 鹿賀丈史 脚本:太田愛 音楽:池田良 監督:橋本一

歴代「相棒 劇場版」シリーズ 興収 NO.1! (オープニングタイ) 2017年リリース 作品中 興収 NO.1! (オープニングウィークエンド) 相棒 劇場版Ⅳ 首都クライシス人質は50万人! 特命係 最後の決断 びあ映画初日 満足度もNO.1! 今回は予測不可能な ところが多く、人間の心、特に 日本人としての「心」が表れている (16歳・高校生) 今この時代を反映させたような内容で、 これまでのシリーズの中で一番面白かった (50歳・会社員) 「相棒」は時代によって、 その時々を取り入れるところがいい。 今回は愛と切なさを特に感じた (20代・公務員) ※びあ映画初日満足度調査 (2月11日びあ調べ) 水谷豊・反町隆史 仲間由紀恵・及川光博 / 石坂浩二 北村一輝 山口まゆ / 鹿賀丈史 脚本:太田愛 音楽:池田良 監督:橋本一 この「伝説」をお見逃しなく。 大ヒット上映中!!